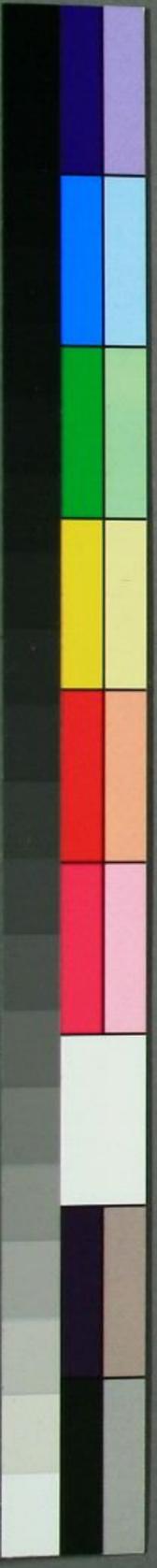


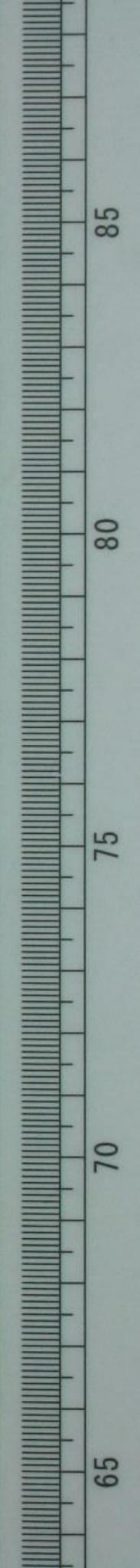
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



繪本故事 七

~~E~~  
13  
7

逍遙文庫  
文庫 6  
25  
7





繪本故事談卷之七月錄

積羽沈舟

沈脩

遠明

李史人

鹿中畜猴

邵平

楊震

伯偕仲偕

孔融

朱買臣

何尚之

楊脩

陶弘景

人麻呂

繪本故事談卷之七

菅原相

藤守

青相

融公

蝶丸

王賢

壬繁

雅伯

藤原

酒君

野見宿禰

七隻

成公

蔡琰

黃初

西施

繪本故事談卷之七

積羽沉舟

我國の張儀ハ蘇秦との小者を師と同一して学ばず  
して當州の宛宛々々を嘗て魏王に就て曰天下の游  
士日相縁と搯を目と眩一毒を切りて以て合従乃  
便と人主に宛者おひあし人主も是にようく心を  
寄せてそを宛不後不后周往羽舟と沈め舟輕軸と  
宛宛に金銭深々と加積し報者よれ遊士宛宛と  
大主いひといらへんあて宛宛にふも迷ひふとかなんぞ  
いへり或るに淹る者不積毀金と積し積終骨を  
磨りて以て石も同なるを



偽の報と云ふを疑わして毎々いふ  
時いた後程も有るに今のまよふと云也

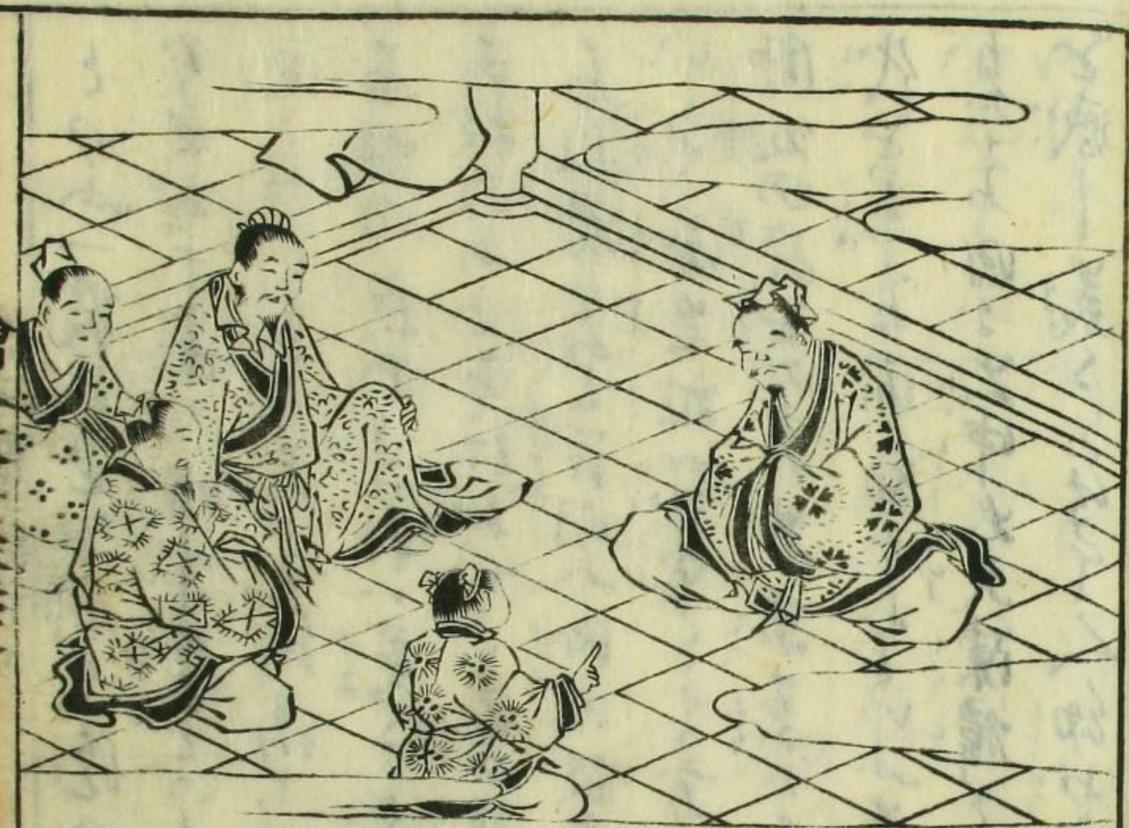


阮脩 昔書

阮脩字宣子七賢の中阮咸の長子なり老  
 乃玄心なるの教を好むこと心の發するにまうせて  
 義を乞簡略し事業とも勉めず平生子粒の流し  
 幾百文と掛り市中と歩み酒肆に就りてむら



飲之醉たのしめを嘗て  
 王術といふ者あるを子才と  
 以てせに名をたらんとす  
 とも未易に熱を以て阮脩  
 以て索てを深理と問阮脩乃  
 活るを微妙と答ふ也



孔融 後漢書

孔融ハ大正部ハ於尉  
 子也一孔融子ハ名  
 是身七人あり其一人ハ  
 弟也一弟名曰子純  
 其弟曰子純乃時昆弟と  
 共に居りて梨を食ふ  
 孔融之を中にして小  
 樽て九人怪て故に問  
 曰何ぞ小樽を小見たり  
 といふを合ふ且て法を重



逢萌 後漢書

逢萌字孝父，陳之令，後亭の令と云わ  
 逢成と紀す。父曰く是を養て公は是を養てと遂  
 去て長安に到り孝父と闘て聖治に通達せし時  
 漢の孝は祖より十三代孺子嬰にわたりて王莽と云  
 位と盛く天子のかりを改正及しし子の王莽と云  
 若く練じると惡と遂に毒と無く致す。逢萌此と云  
 友人は死していつく三綱頽終る。父曰く此と云  
 さん禍多し以て他人より及べしと遂に冠と解て長安  
 城の東都門に掛て遼東郡より去り果して王莽止  
 光武皇帝漢の代と起し十六代獻帝に及る。是と後漢  
 の代といふ



朱買臣 前漢書

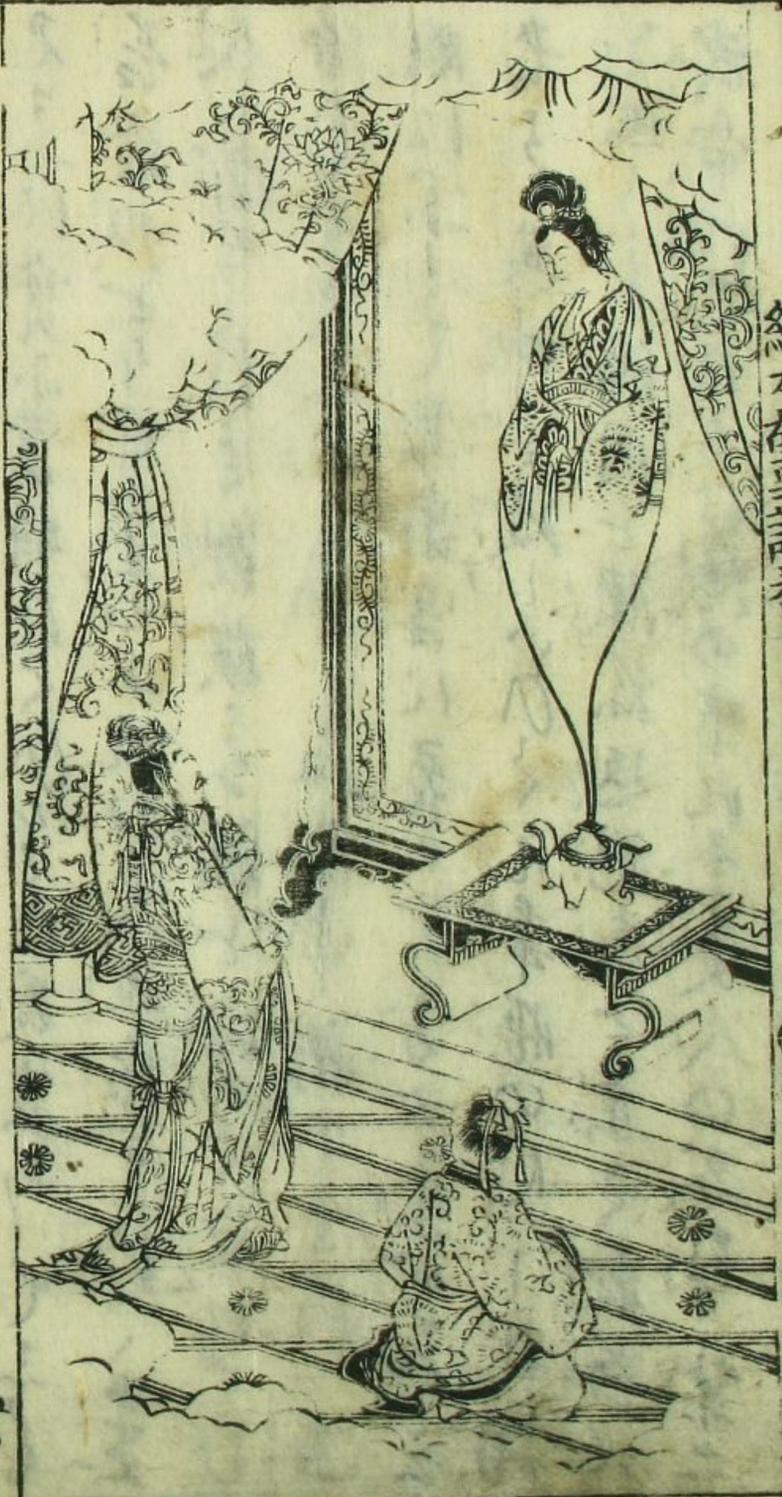
朱買臣字翁子，少  
 貧乏引人薪と愁て  
 賣る。父常に書を  
 誦む。妻は業に疎  
 せりと怒り腹を取  
 りて遂に化の申と未  
 て終り買臣は薪を以  
 て成て路と約す。妻  
 乃後の史亦と家子に  
 て買臣の恥を凍こ

衣の爲に泣かれ其後子買臣字同ありて會  
稽乃太守と成ると駟馬の車に乗つて蓋と蔽ひて  
呉郡の旁に入り故の妻と夫道の掃除と致し州と  
蒔水と酒く買臣車と爲て妻と後車に乗て  
會稽に連往く家乃室に盡く命と給て妻は  
妻恥悔て一月計者く自殺死を志す

李夫人 并修城國之監錫 前漢書

漢の武帝乃時李延年少小若音律と爲て後  
乃に侍して寵恩と蒙り或時帝乃おきて起て舞を  
歌ふとく北方に佳人ありて將立に一  
顧也人の城と傾を再顧也人の國と傾く

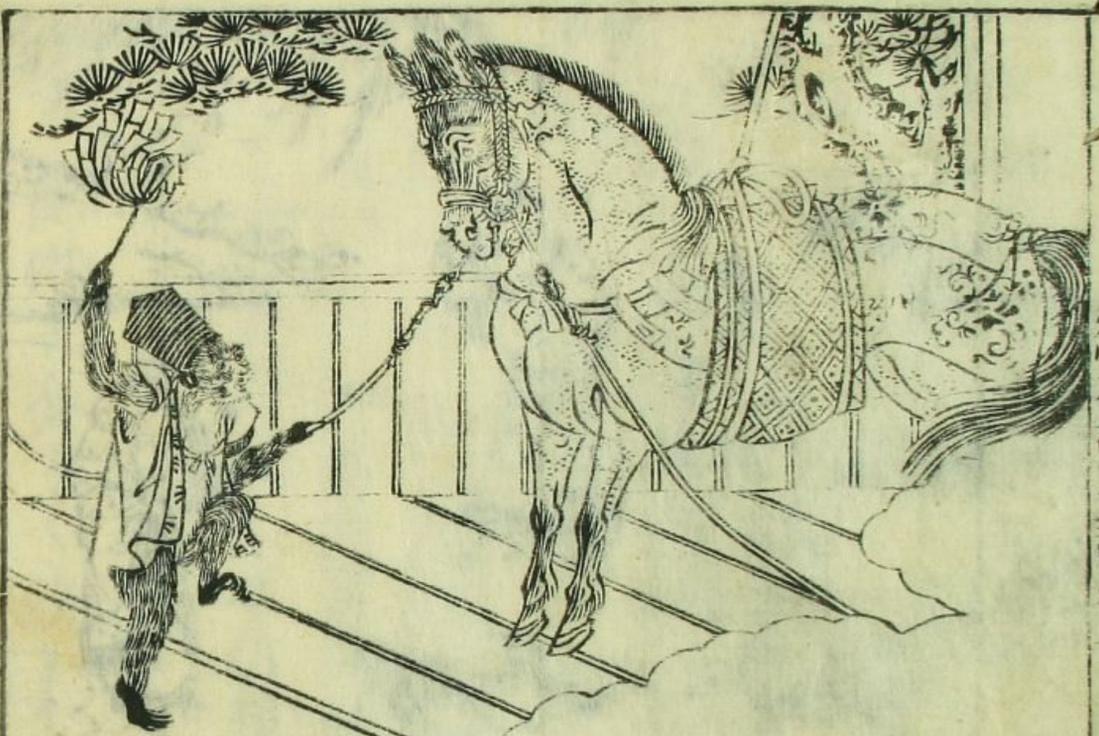
寧知の修城と傾國と佳人身將くとうふ  
武帝歌してのま今吾世に豈此の如ふ人ありやと  
平陽公主の言李延年妹をわと武帝乃は  
又まに實小當時にひなると義舞してまも  
若舞曲となりやわ是小於おくと恩寵と爲りま  
人と稱せし親族と縁と切らる官にま  
我も李夫人よく率しぬ武帝懐てを飛と盡  
圖に寫して其泉宮に葬り方士李がねと云  
若く其神と致といひく九華帳の内一  
と照し酒肉と陳孫返魂香と薫り歌を以  
武帝にえせむ煙の中に李夫人の容勢



して見ろ武帝いふに思て結と成て曰是邪非邪  
きて室ハ偏子何そ辨ととて其来ると達と乃樂府  
よ命孫竹子合きく款しめてさひに思てあまの



何高之類延之 宋拾遺編  
宋の何高之といふ者を  
延之といふ名おら神祝  
至二の朋友りわたり容  
貌確一何高之常子祝  
延之と稱し呼ぶ類延之也  
よ何高之と稱し呼ぶ成  
時二人連る酒池といふ  
遊不類延之既し遊牧人  
子洞ていらく吾二人いつ  
猴小似りおとそ何高之と



と括ていらくわ。おまわら  
 猴ふ似たり外といふ龍延  
 之大小悦、法、昔ハハ  
 わりと同その人善ていらく  
 云ハ乃美の猴ありといふ  
 尚之延之た小轉倒て大  
 小嗟ひくわとたしと

鹿中畜猴

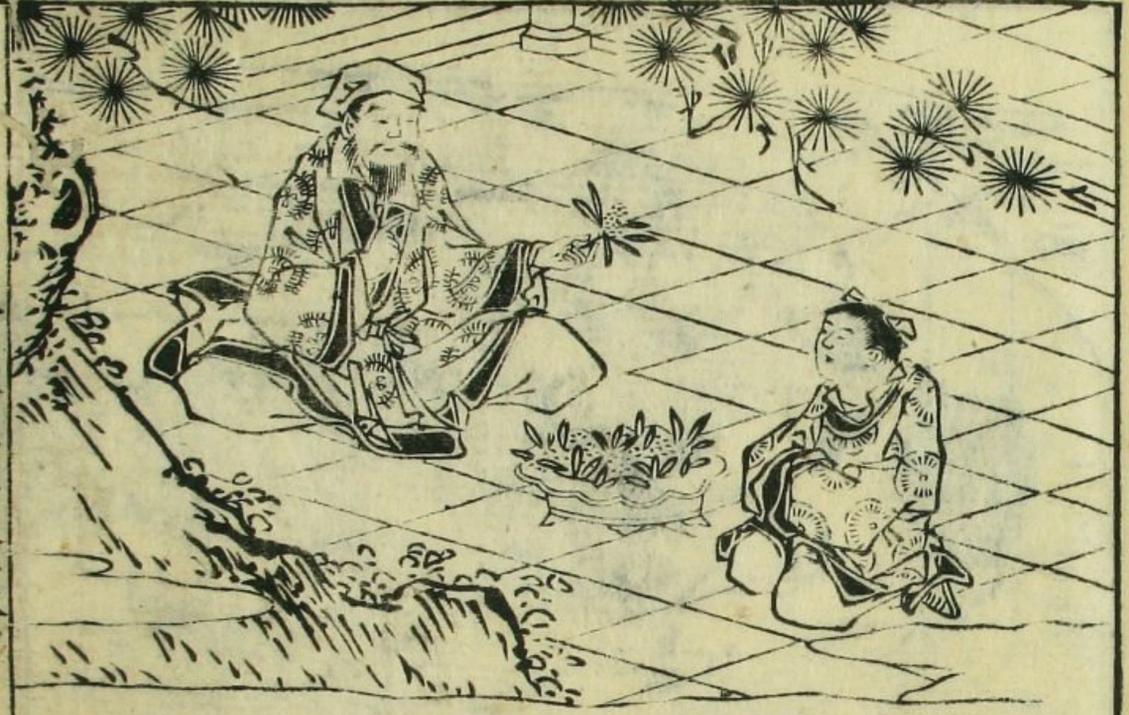
馬屋に猴と畜ふ事  
 を據區がわ成ハる今  
 神なり故に申に化つと

あといよの候と云て居伏と敬致せしりい  
 かわといひ或の儀囊抄に猿と山父と称する  
 子といふ父子の養ありん他馬標神して鹿の神わ  
 まら形像あまに鶴鶴と猿と鳥りあ手に波とあむ  
 宋銘よりわる古神といはるる若かれは猿とあて盡  
 る亦糸請す義に用るるとあわ何ふも畜ふと云  
 又本葉彌猴の條下に粗ハ馬と昔老鹿の中は之を  
 畜ふくると病と碎と云 粗ハ字書に 鹿の屬と云 ○西晋の趙固將軍  
 甚老重すり愛の馬死す趙固これと惜て實家  
 橋に郭璞と云紀術と均る者河東乃詔と釋  
 此子玉門と云る者志らくと説て内子通と云郭璞

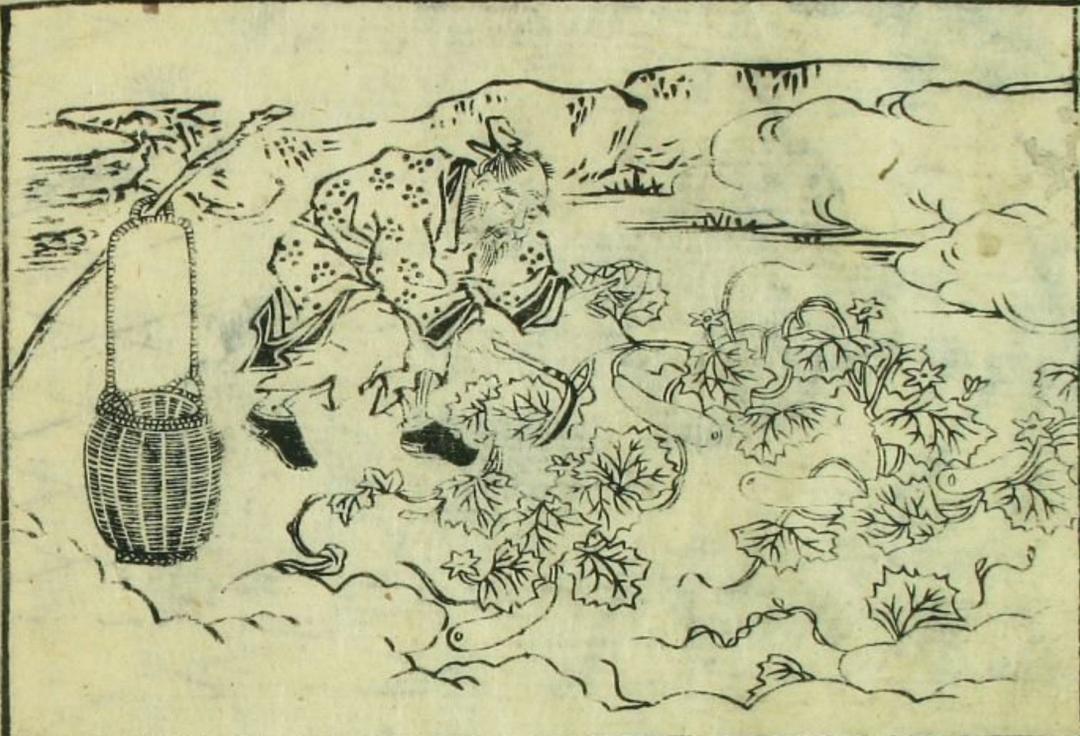
曰吾くくると活すへ一也きまきつて入る白趙國強  
 出ていらく君よく吾ると活せんや郭璞のいらく徒史  
 二三十人と得て皆半と扱へれ東に坊と三十百た  
 して丘林廢社わん役半と扱て打拍の尚に一物と扱  
 へ一益に持て扱へる活せんといふ趙國を言のこくす  
 に果して一物の猴に似たりと扱て持て入るは物るの記  
 ごとくそと扱て役半と扱と扱吸は頭わりて起て奮迅  
 勢鳴すりと帯れあし又向の地足へは趙國大子梅  
 貴して厚く賞給と扱へるといふ 披非記のともいふこ

楊脩 世説新語

漢の楊脩字ハ徳祖ハ大尉楊彪の子ハ材智總兼

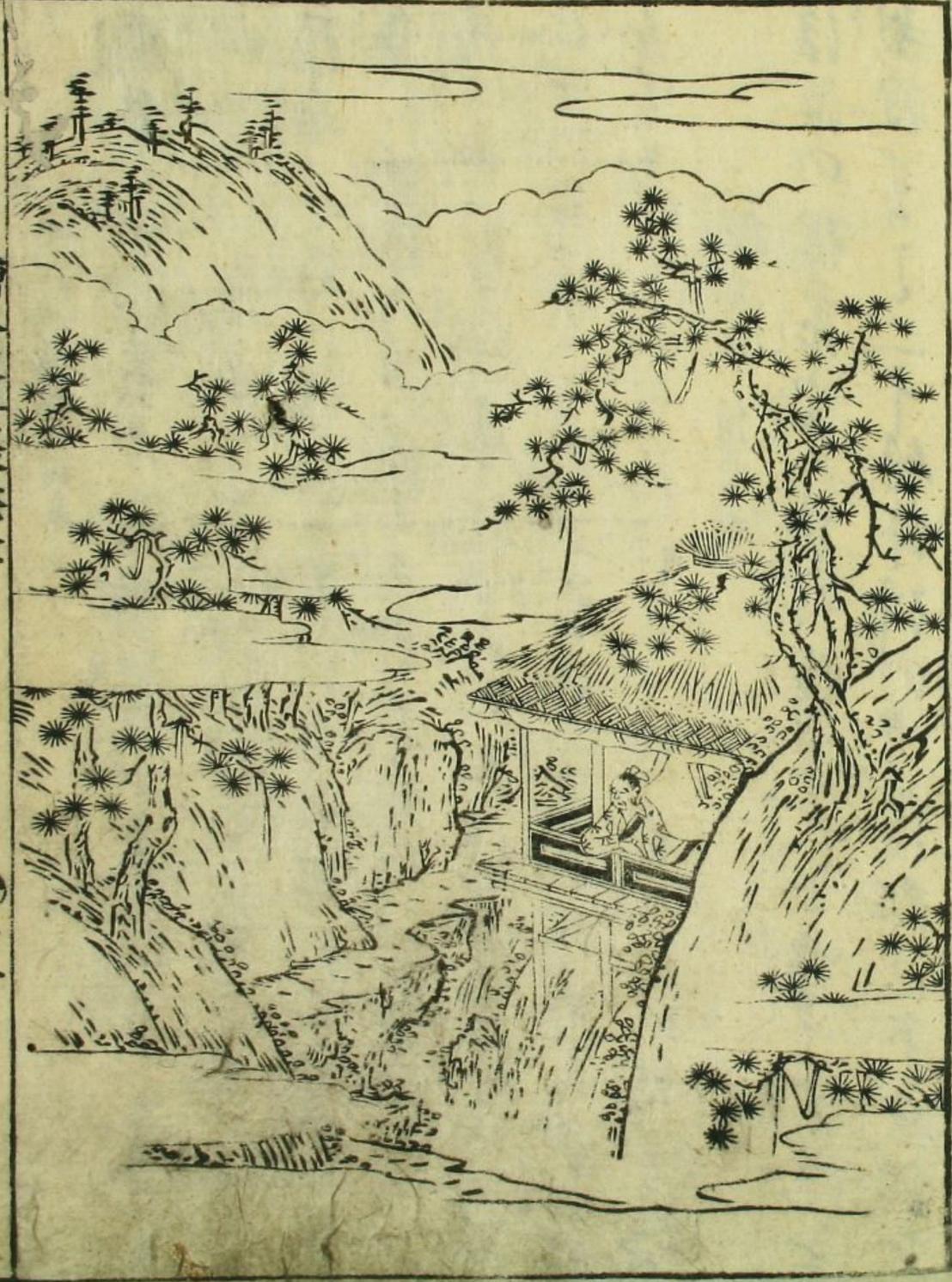


ハ孔子強ク九果の時孔子文  
 筆といふ者そと父に對面  
 と登と欲し入来る時父楊彪  
 家子徳祖にふく楊脩と  
 呼出し一遇ひくわつはるに  
 菓子と扱くこころは菓子ハ楊  
 梅わり孔文卷此と扱く  
 兎に示して曰是も君家の  
 菓ナハわや楊脩ハははに  
 爲して是曰未也は孔子ハ  
 是孔子の家乃禽也といふ



邵平の續秦末

邵平は故秦の東陵侯也  
 秦亡ひて布衣となりて家  
 貧して瓜と長安城の東  
 小種の瓜五三ありて其  
 世にふれと東陵侯といふ  
 朱子のいふく邵平は四皓  
 よわもるし水と  
 公角里先生徳里李四人といふ事  
 白髪の人をんぬに皓といふ皓ハ  
 白さなりわいと秦の代の賢人其能  
 を絶て嵩山といふ所に隠居せり  
 其の好に強言の強きて心と其漢の  
 高帝につくしむ時に八十餘あり





人麻呂

人麻呂姓ハ柿本持統文武の朝仕へく位後三位  
 進じ和弼初胤の巻以人麻呂の墓あり俗呼ばて秋濱と  
 あり也○傳曰人九ハ聖武天皇神龜元年十八日薨す  
 甲子年十二と又古今源流と引く大同二年八月廿三日  
 薨れ八十四歳と又文武天皇二年石見玉に現す何  
 是なりと成知の世掌撰傷事下い多く白髮の老嫗こ  
 古今著述集に云元永元庚子六月十日終理太皇太后  
 上皇東御院の亭に柿本史人九位と引ひさ物件の  
 人九の朝の並房終了わしく夢を夢終するありたの  
 ちに帝と云たの子に象と云て年六旬と云わの人あり



會本女書火卷一

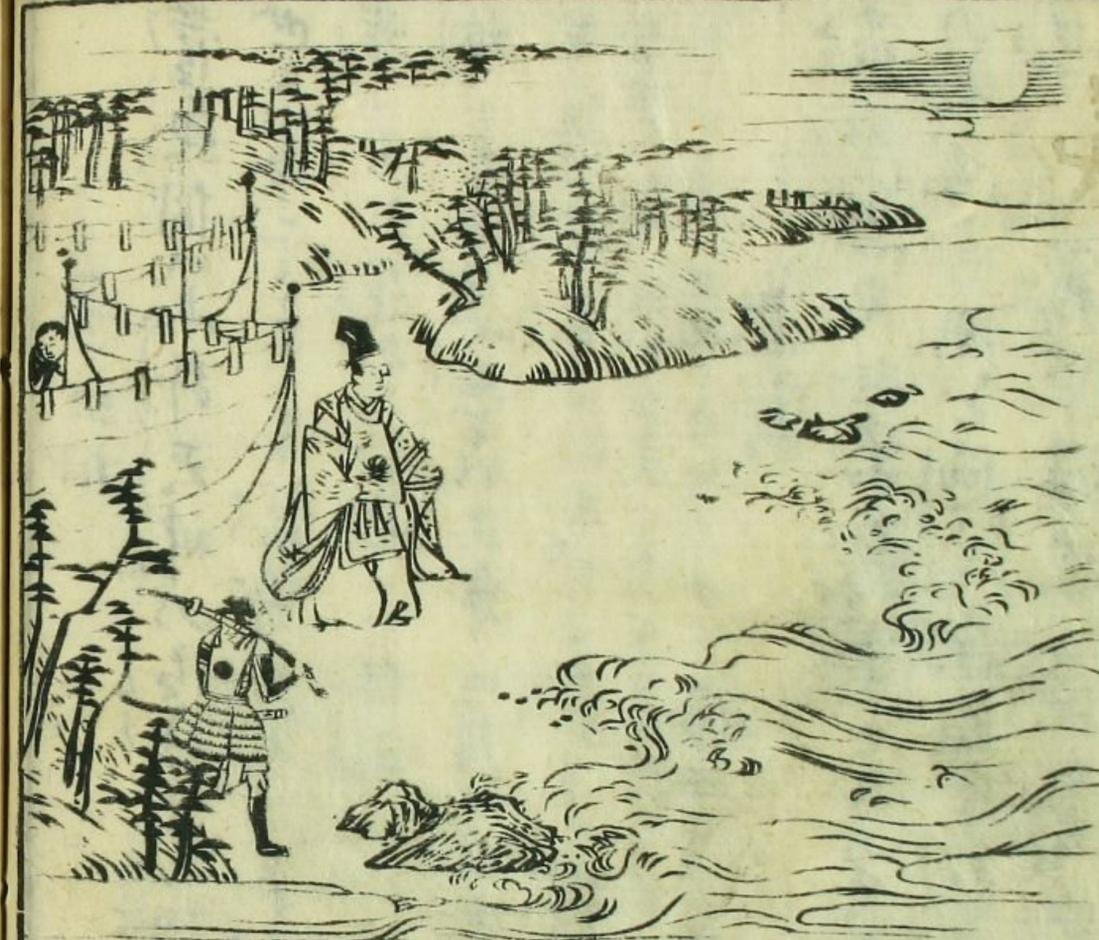


菅原相

菅原相の事天神の治りありて道真字ハ三敏  
 世ハ菅三と申を聰明多才に事孫右典の裁ち不牧  
 舉より以違わねばハ松梅の比とあり亡ハ風舟ハ  
 神とすわらふ延喜元年正月廿九日に在遷同二年二月  
 廿五日安永寺に物以て葬り一ハ  
 菅原の事天神の治りありて道真字ハ三敏  
 世ハ菅三と申を聰明多才に事孫右典の裁ち不牧  
 舉より以違わねばハ松梅の比とあり亡ハ風舟ハ  
 神とすわらふ延喜元年正月廿九日に在遷同二年二月  
 廿五日安永寺に物以て葬り一ハ

滋藤

友原の忠文征東大將軍とありて東海及下向小逢坂河  
 の阿波見の國と過ぐ陰海の赤林江とありて此の地ハ  
 信原滋藤軍監とありて唐の杜荀鶴の漁舟の火氣をく



一し流と境隈  
の流たむらむら  
といふ白と今に  
又其軍中に有  
て文事と云ふ事  
と歎くるやわ

瀧守

南殿の梅は案  
後の巽れ角あわ  
是大内宗剣乃  
時れ樹の法和



帝身親年中に  
以樹花様んうて  
又根は終つ小  
葉は吹くは  
朝とけきて  
後枝多ふ花  
娘も衣まわ  
天徳中は大  
康保元年四月  
を裁く又根  
以又裁く

仁徳帝の時秋九月倭國の長倉の河津古三島と捕て  
 帝に献してはく毎に酒と強多と捕らに未だ  
 是多乃類と時以故に其方より乞と献す帝  
 酒の三と百て多と新してのよ乞何乃多と酒の三  
 對てはくは多の類多く百麻子あわ別てうく人子  
 後知らふ是給の乃酒の美に授く其は川を河を  
 ら以して草織小政と悉く此亦五百百の法得て  
 教于此類と捕ては月南て有升神と定らる故に時  
 の人を多と號く有升邑とよ蓋酒の美は百麻玉の人あり



宵栢

宵栢村上帝の皇子具乎親王の空齋所へ久家家  
 の支葉をわ社推陽ふ居て傍所と考し程む者宗祇及び  
 東の野州孫子就人きと字ひ氏祜乃蓋園と宗祇先  
 奉家の書と蓋園と後栢原帝下と便殿と見へて是歌  
 一の宵栢とて棄句と望せしむ宵栢首唱していそ  
 空に望て人よや歳と秋の月

御制心これと狭く

夜一くゆぬ玉しれきと歌

而く教百句に為る帝大に此多ひて天蓋と鴨小  
 性勢名と就このはのよ此田と帝指し一川の小菴を



傳く傍に夢と以し名く  
 夢名と不自社丹記と標に  
 是の夢候ぬぬや元の  
 かりとまは向し標に  
 必牛に繋り念念向とれと角小  
 塗れり凡と冠と道と其  
 夜と儒ふと久又佛術と就  
 らに性氏とれと久と次と  
 酒香花の三と花し建はる  
 の夢名に徹て三と記と此  
 らし堂及び傍陽の記と遊て  
 泉品の地と法長は辛は

登見宿禰

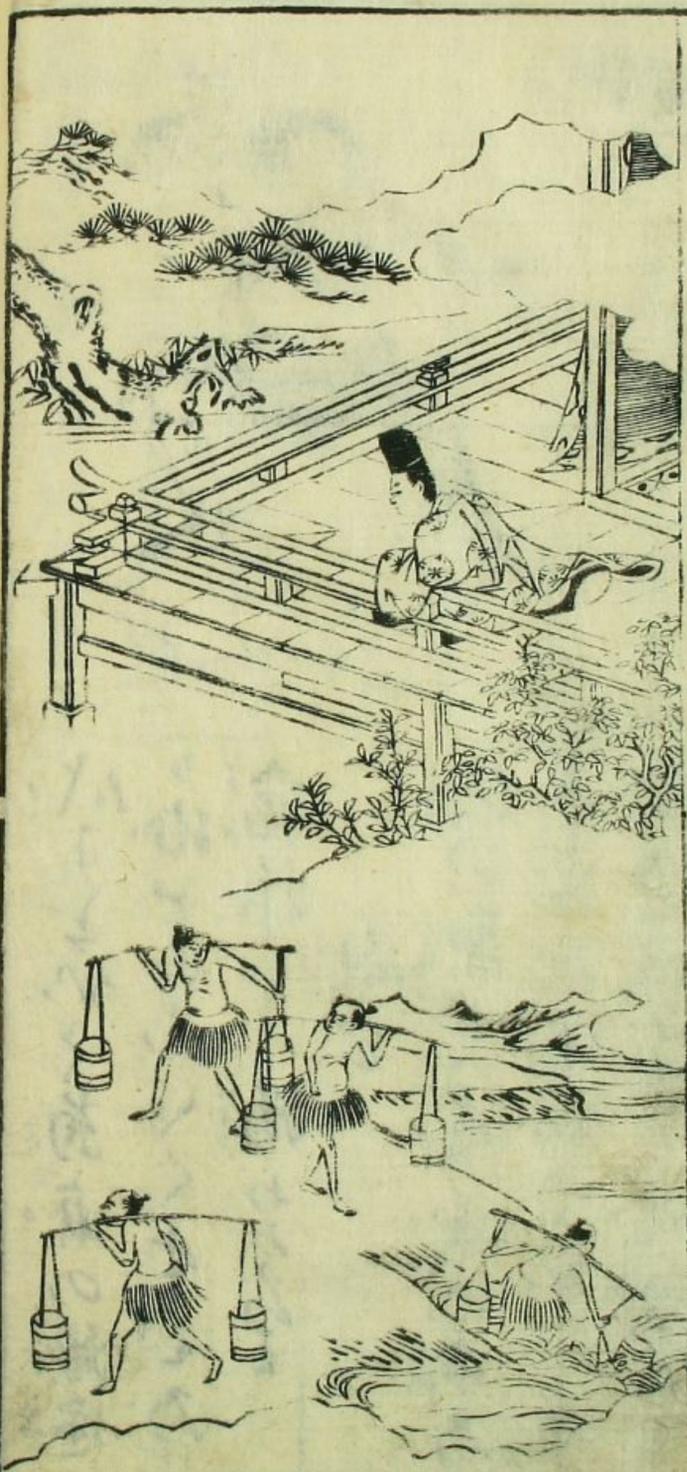
此の仁帝の治時大和玉當麻の邑に瀧速と云  
 の人ありよく角とやぶ里鉤との板がま尻に  
 今回おに求う凡とよそ家う力に及ふ老わく  
 生死と定う程の強力に遇う力と争ふやと  
 海といへり帝いとすうたれ瀧速ハ天下の力士  
 をわ若れよはる老わりのやと時に出雲の玉に  
 の宿禰とや以勇之侍よりと奏以師執命有  
 瀧速と此の宿禰と互に指力と争うと二人  
 相争うと争うに勝負とわすひし此の瀧速  
 腕骨と強うた又と膝と踏らうとやまらち教



此の宿禰と云く當麻の瀧速  
 力と争うと争うに勝負とわすひし此の瀧速  
 腕骨と強うた又と膝と踏らうとやまらち教

融公

源の融公ハ暖城の帝乃  
 子宮た垂相ふね  
 儀同三司小孫く性遊ふと  
 好中矣多歌多花樹木と  
 おひに嘗後奥の垣を  
 形換し河原院とて傍に  
 管造しあひと池沼と穿



人氏<sup>ひと</sup>が<sup>て</sup>激水<sup>げきすい</sup>と津陽<sup>つやう</sup>の<sup>う</sup>海<sup>うみ</sup>に<sup>て</sup>運<sup>は</sup>り<sup>て</sup>毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>眺<sup>なが</sup>む<sup>事</sup>  
 して<sup>て</sup>観<sup>かん</sup>望<sup>ぼう</sup>し<sup>て</sup>亦<sup>また</sup>栖<sup>す</sup>霞<sup>せま</sup>觀<sup>くわん</sup>と<sup>も</sup>石<sup>いし</sup>塚<sup>づか</sup>に<sup>て</sup>建<sup>た</sup>て<sup>て</sup>観<sup>かん</sup>望<sup>ぼう</sup>と  
 する<sup>事</sup>に<sup>て</sup>宇<sup>う</sup>多<sup>た</sup>比<sup>ひ</sup>帝<sup>てい</sup>寬<sup>かん</sup>平<sup>へい</sup>元<sup>げん</sup>年<sup>ねん</sup>十<sup>じゅう</sup>月<sup>げつ</sup>終<sup>つひ</sup>了<sup>りょう</sup>され<sup>て</sup>輦<sup>けん</sup>  
 に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>宮<sup>みや</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>い</sup>出<sup>い</sup>入<sup>い</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>後<sup>のち</sup>七<sup>しち</sup>年<sup>ねん</sup>あ<sup>り</sup>て<sup>て</sup>卒<sup>すつ</sup>時<sup>とき</sup>七<sup>しち</sup>十<sup>じゅう</sup>三<sup>さん</sup>

新本故事記卷七

七使

七使ハ皆姓字と初ルに老翁七人形高性粹と云  
海へ相懸て流し衰老せりふを成歎して若に  
和衣と他く志と示れしよふそく

かきおれいふぬの物を年といひきくおしハハく  
をそーにたり

とてら必難波の三津よや燈のうらも家ハ  
老子  
りりか  
そ三よいんく

おいらくのふんと志りせハ門くておと若く遊さ  
ましを

さうしまいも七使うきえちわにふらよひやちるに海と



そととびの梅よりわねの年月とわこい所ふうと  
そととびの梅よりわねの年月とわこい所ふうと  
そととびの梅よりわねの年月とわこい所ふうと  
そととびの梅よりわねの年月とわこい所ふうと

徳山とまふくえとゆき年へぬる身はさやふあつと

懐丸

懐丸仁明帝の時乃人そ姓氏群おはは人の徳胤と  
よと誠知に蓋おの隠逃の士をうし自業廣と逃  
坂の岡よ陣し合と活其の人にとおむと徳胤と  
と強一又徳保教と吟しそと高一ふと後

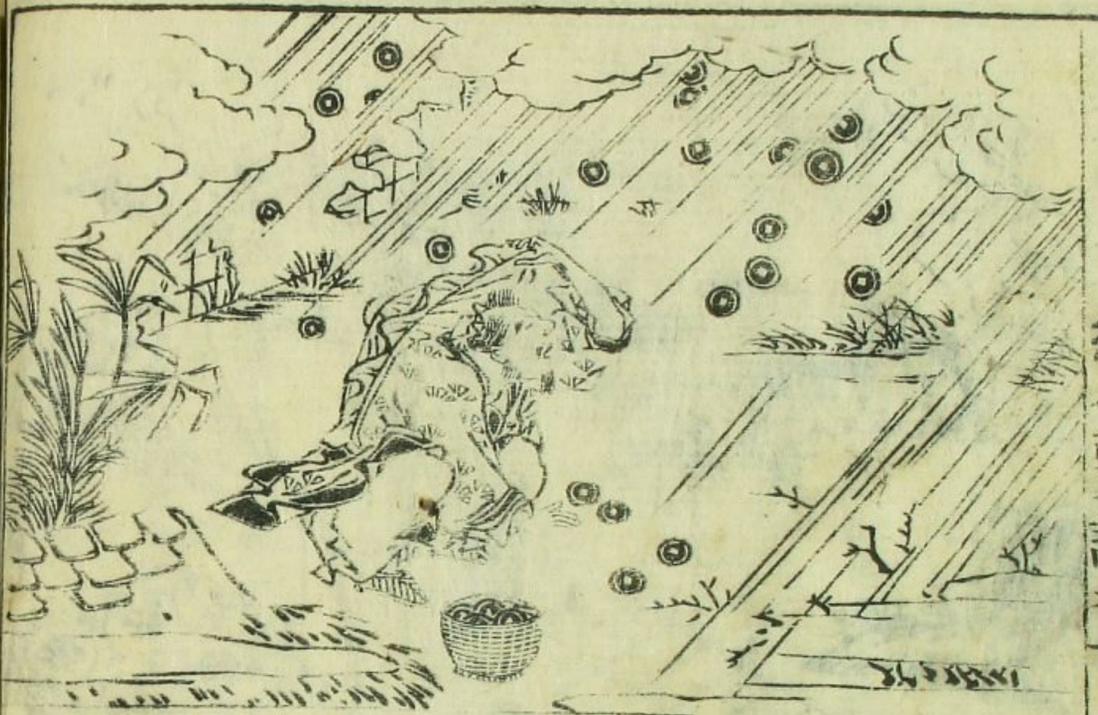


世に徳とまふくえとゆき年へぬる身はさやふあつと  
その徳胤と無明と大徳宗  
の帝うらみあつた自業廣と逃  
して活ておむと徳胤と  
世に子懐丸は徳胤の王子と  
と又ハ教實教王の教と  
あつといは徳胤の王子と  
時代お徳胤といは徳胤の王子と  
育人といふも徳胤の王子と  
徳胤の存に徳胤の王子と  
ててとわふと徳胤の王子と









海濱の事  
者始家食しく困窮し  
々々後像子大風ありて  
虚をわ殊に飛散て災  
難の家を難國に船あり  
て家の子救を知り此  
小色此と拾ひ行るわ  
遂に救千五の家人とわ  
印小子名とわらして感  
と不やふやらやたら

雍伯 搜神記

羊公雍伯の洛陽の人をわ父母は孝りと畫して  
事々わ親の命終て無孫山小葬ま此と去る家  
と作て作めわ素高山より水と四一洗来の濁と  
救らん為に坂の歌ふ水と汲来と信を以人の物と  
か此上三子及へわ一人の美人ありいと欲て後中  
すわ小石一絆をわと出して羊公と去ていづく此を  
北上に程ハ玉まさのま中に生す一後事は好婦  
とゆへ一といひ昇てるは乃を石と程てわ  
祝らに玉子の生すりて成るは小平初の徐氏  
の家は災わわ人多く求るに徐氏羊公と此に



呉女と云ふ人といふは徐氏  
 思ふに然るも徐氏も  
 美の人と云ふ人といふは  
 羊公公と云ふ人といふは  
 嚳白公と云ふ人といふは  
 まさに婚と云ふ人といふは  
 程々の玉五雙といふは  
 騶以遊子女といふは  
 周天子へ出されたる  
 の友と云ふ人といふは  
 石垣と云ふ人といふは



西施 呉越春秋  
 西施は周の東越玉の清  
 既と云ふ比の女といふは  
 美人なり越王勾践の臣下  
 范蠡と云ふ人といふは  
 王と云ふ人といふは  
 好色に感て遂に去と云ふ  
 今に云ふ人といふは  
 棒心と云ふ人といふは  
 としと云ふ人といふは  
 人と云ふ人といふは

画心と痛て眉と鬢しを里の醜女ともつ  
 子夫の貌と介介して画心と鬢とを妬くといふ  
 容貌をこいそり以て厭んで夫の好む所をあり  
 それを心を指へ眉と鬢とを擧げて夫をあらう  
 強醜して夫のいふ及ては里の富人の妻を  
 と困て介介して貧者の妻とを妬きて夫の  
 所をあらうと鬢を消えりといへる画心の醜は  
 昔時二人の美をあら其を指画心とを妬くといふ東  
 小指すりと東施といひしなり

畫本刊行目錄

大野木寶文堂

畫本故事談 橋有松守國畫 全九冊

畫本手鑑 法眼春卜一翁纂 全六冊

畫典通考 同上 全十冊

和漢名画苑 同上 全六冊

唐土訓蒙圖彙 同上 全十五冊

畫史會要 同上 全六冊

詩繪大全 法橋春川筆 全五冊

欄間圖式 大岡氏筆 全三冊

畫本圖編 江府英一峰筆 全三冊

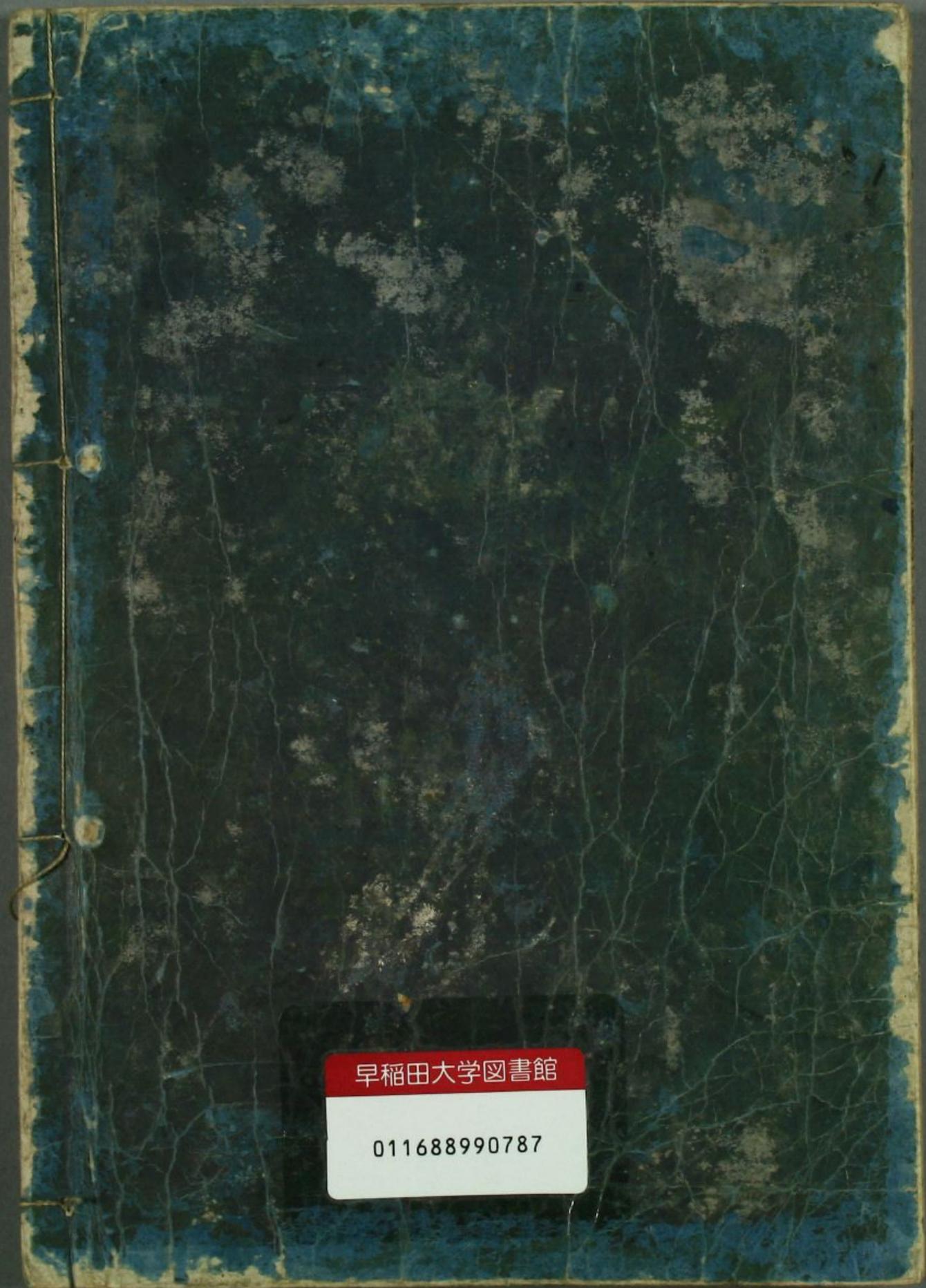
梅道人墨竹譜 全一冊

畫筌 筑前林守篤著 全六冊

逸畫史 未刻 全二冊

女武勇粧競 月岡丹下筆 全三冊

大明萬國圖 折本 一冊



早稲田大学図書館

011688990787